

## 学 位 論 文 要 旨

保健医療学 研究科      保健医療学 専攻

平成 28 年度入学

氏名 松浦 悠人

### 学位論文研究指導

教員氏名 坂井 友実 教授

### 学位論文題目

うつ病と双極性障害うつ状態に対する標準治療による助走期間を考慮した  
鍼治療3ヶ月間の上乗せ(add-on)効果と持続効果：過去起点型コホート

### 学位論文の内容要旨(1,000字以内)

【目的】うつ病(major depressive disorder: MDD)と双極性障害うつ状態(bipolar disorder: BD)における鍼治療の上乗せ効果を、助走期間を考慮し、フォローアップの標準治療期間との比較により評価した。

#### 【方法】

[研究デザイン] 過去起点型コホートを用い、標準治療助走期間3ヶ月、標準治療+鍼治療上乗せ期間3ヶ月(A)、フォローアップ期間(B)3ヶ月間、として比較するAB法。

[セッティング] 都会型精神科クリニック外来。

[対象] 組入れ基準は、MDD およびBDの診断(DSM-5)、18歳以上、2種類以上の薬物による十分な治療で改善または寛解しなかった者、鍼治療期間の前3ヶ月のデータがある者、鍼治療の初診時「ひもろぎ自己記入式うつ尺度」(Himorogi self-rating depression scales: HSDS)10点以上。

[鍼治療方法] 3ヶ月間週1回。鍼治療部位は、百会・合谷・内関・足三里・三陰交・太衝・脾俞・肝俞・心俞・風池の10穴を共通治療穴とし、その他各症例の身体症状に応じた。

[アウトカム評価項目] 主要評価項目はHSDS、副次評価項目は「ひもろぎ自己記入式不安尺度」(Himorogi self-rating anxiety scale: HSAS)と使用薬物(抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬)の等価換算値を用いた。

[統計学的解析] 反復測定分散分析法の後、有意差が認められた場合の事後検定としてDunnnett検定を用いた。有意水準0.05とした。

【結果】鍼治療を実施したMDD 8例中6例、BD 19例中13例が解析対象となった。HSDSは、Mean±95%CIで初診時19.2±2.4点と比較し2ヶ月後16.2±3.0点、3ヶ月後12.8±2.5点、4ヶ月後14.5±3.1点、5ヶ月後14.6±3.8点、HSASは初診時19.2±3.7点と比較し2ヶ月後15.0±4.1点、3ヶ月後14.0±3.4点、4ヶ月後14.7±3.9点の時点で有意な減少が認められた。3期を通じて使用薬物の等価換算値に変化はみられなかった。

【考察・結論】3期を通しての脱落はMDD 2例(25%)、BD6例(32%)あり限界付きの結論ではあるが、標準治療へ鍼治療を上乗せすることで、うつ症状は2ヶ月後に一定の改善がみられ、その効果は、鍼治療終了後2ヶ月は持続する。